

各常置委員会の委員公募内容一覧

委員会名	募集人数の目安 ※採用人数は募集人数を超える場合や、少ない場合があります。採用がない場合もあります。	主な活動・業務内容	委員会開催頻度 ※zoomでの遠隔会議を基本として開催しています。	業務に関する特記事項	応募要件	その他特記事項	応募用紙	応募用紙提出先・照会先
大会	3名程度	大会委員会は、学会の春季（5月下旬・オンライン開催）、及び秋季（11月下旬・各地のコンベンションセンター等）の大会事業に係る業務全般を担当しています。大会全体の企画・運営、発表応募審査（審査結果の集約・採否の決定）、大会若手優秀発表賞選考部会の運営、プログラム・予稿集の作成、広報、大会当日の運営など、他委員会との連携の下に行っています。	全体会議：年4回（1月・4月・8月・10月）	なし	左記の業務を行う強い意欲を有し、かつ、春季・秋季の両大会に参加できる方（学会や研究会等での委員活動経験がある方に限りません。「経験がなくても強い意欲がある」という方のご応募も歓迎します）	春季大会はZoomでの開催、秋季大会は全国各地での会場開催となります。会場開催の場合には現地での委員活動となります。大会参加費、交通費はご自身での負担となります。ただし、大会参加費に関しては、所属機関からの研究費の支給などを受けていらっしゃる委員の方には補助制度もございます。	大会委員会応募用紙	taikai-office@nkg.or.jp
支部活動	九州・沖縄支部1名程度（福岡・佐賀・長崎・大分・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄）	【主な活動】 ・会員からの応募企画を、担当する支部で実現するための支援を行います。また、地域の実情、特徴、ニーズに合わせて、支部集会や支部活動を企画、運営します。そのために、他の委員会や運営協力員と協力しながら関連諸機関との連絡調整、プログラムの作成、広報活動も行います。 ・支部集会においては発表応募要旨の審査を大会と共通の枠組みで行います。また、交流ひろば応募の確認、応募企画の審査も行います。また、秋季大会においては、交流ひろば、及び地域発信企画の企画、運営を担当する場合があります。 【業務内容】 ・支部集会・支部活動の企画・広報・運営・報告 ・応募企画の実現支援 ・発表応募要旨の審査（査読結果の集約・採否の決定） ・他の委員会との連携による企画立案・運営等	全体会議：年2回（おおよそ5月・11月） 分科会：必要に応じて適宜	なし	・左記の業務を行える経験や知識を有すること（他学会や研究会での委員活動経験も可） ・2017年度以降の支部集会、支部活動、秋季大会における交流ひろばへの参加経験があることが望ましい。	九州・沖縄支部の支部活動に参加できる方を募集します。参加にかかる費用（参加費・旅費）はすべてご自身での負担をお願いしています（ただし、所属する委員会が主催するイベントにおいて業務を行う場合で、かつ、委員が所属する機関等において、研究費などで参加費を充当できない場合には参加費免除制度もございます）。	支部活動委員会応募用紙	shibu@nkg.or.jp
チャレンジ支援	3名程度	チャレンジ支援委員会はチーム体制で事業を行っています。 ・はじめて系：「わかばコンサルジュ」「わかばさんいらっやい（大会参加オリエンテーション）」「おせっかい侍の発表応募支援」 ・キャリア系：「ぶらさだわかば（センパイとの対話の場）」、「キャリアパスフォーラム（日本語教育現場に関する情報提供）」 ・これから系：「明日のための学びの場（あしたば）」 上記の所属チームの担当事業への出席の他、通常の委員会内のディスカッションや情報のやり取りには、slackや委員会専用のメーリングリストを使用します。	全体会議：年3-4回 分科会：必要に応じて適宜	なし	他の委員と楽しく協働しながら委員としての役割を主体的に果たし、委員会活動に貢献して下さる方。	委員会活動は大会中に行うものもありますが、個人の発表を妨げるものではありません。	チャレンジ支援委員会応募用紙	challenge@nkg.or.jp

(次ページに続く)

委員会名	募集人数の目安 ※採用人数は募集人数を超える場合や、少ない場合があります。採用がない場合もあります。	主な活動・業務内容	委員会開催頻度 ※zoomでの遠隔会議を基本として開催しています。	業務に関する特記事項	応募要件	その他特記事項	応募用紙	応募用紙提出先・照会先
学会誌	A. 英語論文の査読を担当する主査1名程度 B. 様々な統計分析手法や質的分析手法が用いられた論文の査読を担当する主査1名程度	学会誌委員会では、年に3回刊行される『日本語教育』の刊行事業に関わる業務全般を担当しています。具体的には、投稿論文の査読・審査、特集号の企画・編集、寄稿論文号の企画・編集、学会誌刊行等にかかわる方針の検討などが挙げられます。その中で今回の公募対象である主査担当委員は、以下の「業務に関する特記事項」に掲げている業務を担当していただけます。 A. 英語論文の査読を担当する主査1名程度 B. 様々な統計分析手法や質的分析手法が用いられた論文の査読を担当する主査1名程度	全体会議：年3回 ※主査担当委員は出席不要 分科会：必要に応じて適宜	1) 主査として、主に英語による投稿論文の査読あるいは様々な統計分析手法や質的分析手法が用いられた論文の査読 2) ご自身による査読のほか、副査を含めた査読結果の取りまとめと投稿者宛コメント作成（英語による投稿論文でのコメント作成は日本語によるものとしています） 3) 条件採用になった場合の再査読 *各号につき（年に3回）、最大3本の論文のご担当をお願いします（以下2点に該当する論文の投稿がない場合は査読担当がないこともあります）。 *事前に査読可能な専門分野をお聞きしますので、可能な分野と合致した内容の査読のご担当をお願いすることになります。	以下のAまたはBのいずれかを満たす方 A. 日本語教育、日本語学等の関連分野に関する英語論文の査読が可能なこと B. 日本語教育、日本語学等の関連分野に関する様々な統計分析手法や質的分析手法が用いられた論文の査読が可能なこと	なし	学会誌委員会応募用紙	gakkaishi@nkg.or.jp
社会啓発	4名程度	以下の3本柱で活動しています。 ①秋季大会一般公開プログラムの企画・運営 秋季大会の初日に行われる一般公開プログラムの企画・運営を行っています。 →2024年度秋季大会において行われる一般公開プログラムに関しては、 こちら のp.4をご参照ください。 ②動画（NKG-TV）作成 毎年日本語教育に関するテーマを設定したうえで、そのテーマに沿った動画を4本程度作成し、YouTubeで公開しています。 → 日本語教育学会YouTubeチャンネル をご参照ください。 ③寄付金募集活動 日本語教育学会への寄付の呼びかけ及び受け付けを行っています。 →日本語教育学会ウェブサイト「 寄付のお願い 」をご参照ください。	全体会議：年3回程度	・日本語教育の学会や関係者のみならず、一般の方向けに情報発信していく心気がある人を歓迎します。 ・委員確定後、委員会内で新委員に①②③のどの活動を担当していただくかを協議のうえ、決定します。	特にありません。	本委員会には、研究者、NPOや国際交流協会職員、現場の支援者など、いろいろな人が所属しています。この多様性が重要であると考えています。	社会啓発委員会応募用紙	shakaieihatsu-office@nkg.or.jp
国際連携	2名程度	■世界の日本語教育を繋げるために 1. 日本語教育分野における諸外国・地域との連携、協力に関し、学会の寄与し得る施策の検討 ・日本語教育グローバル・ネットワーク（以下「GN」）加盟の諸外国・地域の日本語教育学会・研究会・教師会などの情報交流及びその他の連携活動 ・日本語教育国際研究大会(ICJLE)の開催に関し、その企画への必要な協力（本学会による企画立案・実施に関わることもある） ・GNの事務局担当、/GNウェブサイトの管理 2. 日本語教育グローバル人材奨励プログラムの準備、広報等 3. 「世界中の日本語教育関係者のためのオンライン交流会」の準備、開催等 4. ウェブサイト「むすぶ」の「世界の日本語教育」「海外の学会から」の原稿の執筆依頼、校正、HP掲載	全体会議：年5回程度	委員確定後、委員会内で左記活動の主な担当を協議する。	海外の日本語教育関係者とネットワークをお持ちの方、海外での日本語教育経験のある方、ICJLEの参加経験のある方が望ましい。	日本語教育国際研究大会（ICJLE）参加の際の交通費・宿泊費などはご自身でご負担いただきますのでご留意ください。	国際連携委員会応募用紙	gn-nkg@nkg.or.jp

※表彰は委員会の性質上公募の対象としていません。

※今回は、第3次中期計画において委員会改組の可能性があることから委員の公募を行わない委員会もあります。